

## 尾道市立市民病院における家庭医療後期研修の特徴

当院は昭和5年に尾道市立尾道診療所として開設されて以来、時代とともに総合病院として拡充され、現在では一般病床330床を有する地域の基幹病院として、更なるその機能を高める取り組みを行っている。現在尾道市は全国的な問題である地域格差、また行政の広域化による山間部・島嶼部の合併の影響もあり高齢化率は29.8%（総人口148,793人、平成21年12月現在）と高齢化が進んでいる。このような時代、地域の要請に対応して、とくに高齢者医療において重要となる地域の諸機関との連携を緊密に行い、患者中心、家族志向の包括的診療を行っている。その主要な方略として、病診連携における先駆的な取り組みとして知られる「尾道方式」を特徴付けるケアカンファレンスを、かかりつけの開業医およびコメディカル、介護系職種とともに開催している。

一方で、地域医療の拠点となる総合病院として有する高い専門性を、個々の症例に対して効果的に活用可能とするための数々の院内体制（チーム、センター）を構築しており、診療科・職種横断的に運用している。

また、平成19年からはしまなみ海道によって結ばれる瀬戸田町（生口島）に19床の一般病床を持つ附属施設として瀬戸田診療所を開設し、訪問診療、訪問看護を含む地域でのプライマリケアを実践している。

これらのリソースを活用して日常診療を通じた研修を積むことにより、家庭医となるにあたって必要な知識、技量を習得するに十分な経験を積むことができる。

## 研修目標

1. 複数の問題を抱えて受診することの多い高齢者に対し、効率よく、バランスよく統合されたケアを提供するとともに、総合病院のもつ専門的機能を有機的に活用するための妥当かつ時宜を得た判断ができる。
2. 増加する生活習慣病に対し、早期のリスク評価を行い心血管病の早期予防を図るとともに、患者に対し行動変容のアプローチを含む患者教育を実践し、また多職種による教育システムを活用できる。
3. 幼少時・思春期のケア、女性・男性特有の健康問題、メンタルヘルス、臓器別の問題（心血管系、呼吸器系、消化器系、代謝内分泌・血液系、神経系、腎泌尿器系、リウマチ性・骨格筋系、皮膚、耳鼻咽喉、眼）における幅広い医学的知識と技術を身につける。
4. 一次救急、二次救急での初期対応ができる。
5. 病院主治医と在宅（診療所）主治医との間で診療情報、治療方針の伝達、確認を行い、医療の継続性を確保できる。同時に医療系、介護系の多職種よりなるチームで密な情報交換を行い、患者の心理的、家庭的、地域的、文化的背景への共通認識を確認しつつ全人的、包括的医療を実践できる。また患者、家族への説明責任を果たせる。

6. 診療所でのプライマリケア、在宅医療を実践できる。
7. 地域、コミュニティーでの疾患予防、健康教育に貢献でき、また地域のニーズを踏まえた活動の中で自身の診療の質を高めることができる。

#### 方略

1. 総合診療科外来を担当し（1年以上）、初診患者の初療および適必要に応じて適切な専門科へのコンサルテーションを行う。
2. 健診業務への参加、動脈硬化性疾患のスクリーニング目的に開設した「血管診療センター」の業務およびカンファレンスへの参加。また糖尿病教室、禁煙外来、栄養サポートチーム（NST）の活動に参加可能。
3. 一般内科（1年以上）、小児科（3-6ヶ月）の外来および病棟業務を主治医・担当医として行う。また外科、産婦人科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻いんこう科、放射線科については、各自の希望に応じて弾力的な期間設定で選択し（計6-9ヶ月）、外来を中心に、もしくは希望により入院患者の診療も含めて研修する。
4. 当院救急部（日中週1-2回程度）および尾道市立夜間休日診療所（当直月2-3回程度）を担当する。
5. 「尾道方式」による退院時ケアカンファレンスに主治医・担当医として参加し、在宅主治医と直接情報交換を行う。またコメディカル、介護職の担当者と直接面談し、患者と家族を交えて問題点の討議、指示を行う。終末期においては緩和ケアチームと連携し患者のQOLを第一とした医療サービスを提供する。
6. 当院附属施設である瀬戸田診療所にて研修を行う（6ヶ月-1年）。
7. 自治体の健診事業などへ積極的に参加する。地域の学会・研究会、講演会、病院主催のオープンカンファレンスなどに能動的に参加することで、最新の医療情報を共有する。

#### 評価法

- ・ 指導医とともに日々の診療の中で振り返りを行う。
- ・ おおむね3ヶ月ごとにプログラム責任者とともに目標到達度と問題点を確認し、研修医と各部所の指導医にフィードバックする。
- ・ ポートフォリオを活用して形成的評価を行う。
- ・ 学会発表、論文の実績。

スケジュール例

卒後 3 年目	総合診療外来、救急外来、夜間休日診療所	
	一般内科	
卒後 4 年目	救急外来、夜間休日診療所	
	小児科	選択
卒後 5 年目	瀬戸田診療所	

内科研修中に希望に応じて呼吸器内科、消化器内科、循環器内科の臓器別研修が可能。  
選択は外科、産婦人科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻いんこう科、放射線科より。